



(7ページからの続き)

沖縄県にあるパチンコ依存問題相談機関のリカバリーサポート・ネットワークへ出向し4カ月間にわたり相談業務の補助をしてきた(株)サンキョー・中島大輔氏が「リカバリーサポート・ネットワーク出向で感じたこと」と題した講演を行った。



中島大輔氏

に支障をきたしたり、借金がかさみ家計が破たんしたりするなど日常生活



に悪影響を及ぼすほどに、パチンコやパチスロにのめり込んでしまう状態のこと。しかしながら生活環境の変化等で改善されるケースもあり、一概に病気と断定はできない」と述べた。

また、現在養成研修が進められている安心パチンコ・パチスロアドバイザーについて、「ホールスタッフとして大いに勉強になり、パチンコをしてお客様の動機や心理を見出す幅が広がった。どうしたらパチンコを辞めさせるかではなく、どうしたらより楽しくパチンコと付き合えるかのアドバイザーになっていきたい」と体験を通しての感想を語った。

引き続き、全日遊連・阿部恭久理事長が「業界における依存問題の現状と課題」に

ついて全日遊連の取組みや政府の考え方等を中心に報告した。

阿部理事長は、「業界は、他の公営ギャンブルに比べ早くから依存問題への取り組みを進めてきている。RSNの設立と支援は代表的な出来事。それに合わせて、のめり込み防止の共通標語を入れたチラシでの啓蒙活動、依存問題対応ガイドラインの制定、また自己申告プログラムの開設と導入などがあげられる。しかしながら、IR整備推進法の施行を契機に、更なる対策の強化が求められている」と現状を語り、時系列に基づいて政府の動きと業界の取組みについて報告した。

また、現在全日遊連が積極的に養成をしている「安心パチンコ・パチスロアドバイザー」については、「RSNの側面支援を目的に、ホールで遊技客からの相談や客との会話の中から、依存問題が懸念された場合の対応フォロー、啓蒙ができるようなアドバイザーを要請したい。全国で3万人規模、各店3人はアドバイザーを配置したい」と考えを示し、出席した各県遊協(連)役員らに認識の共有・地道な取組みの継続を要望した。

「当面の諸問題」に関する意見交換では、新遊技機開発の有無から健康増進法と遊技業界、規則改正による遊技機の認定およびみなし機の取扱い等、遊技機関連の質問や意見が多く出され、阿部理事長はじめ全日遊連機械対策委員長でもある竹田会長が質問に答えた。

最後に、次年度の開催県選考が行われ、順番通り宮城県が担当幹事となり開催することでもとまった。開催日は、9月6日、7日。